

第3章

快適なまちづくり のために



第1節 みどりのあるまちづくり計画

住みやすいまちのすがたのために

住みやすいまちづくりを進めるために、いろいろな計画を策定しています。ここでは、将来のまちづくりをどのようにしていきたいかを明確にした計画を見ていきます。

●都市化の現状と将来像を示した「都市計画マスタープラン」

都市計画マスタープランは、おおむね20年後の町の姿を展望して基本的な方針を定めており、10年に1度、新しい計画を策定しています。

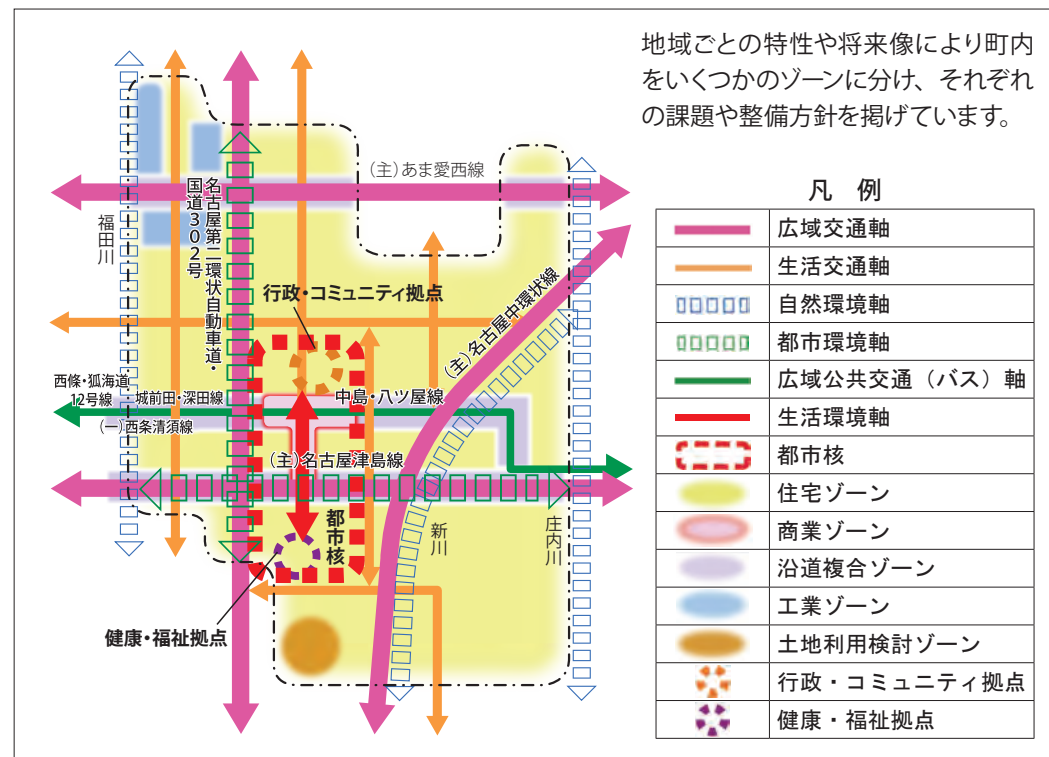
道路などのインフラ整備の必要性や防災対策への取り組みなどが、主な課題となっています。

これらを解決していくためには、町民と協働していくことが大切です。

●緑のまちの方向性を示した「緑の基本計画」

緑の基本計画は、地球温暖化や防災・減災対策などの視点で、どう緑を保全していくのかを定めた計画です。この計画も、おおむね20年後のまちの姿

図3-1 将来都市構造図（都市計画マスタープラン）



を展望して10年に1度、新しい計画を策定しています。なお、樹木や草花といった植物だけでなく、農地や河川、公園などを含めて「緑」としています。

今の町の状況は、宅地の開発がどんどん進んで緑が減少し、また、公園の数も少ないと感じている町民もいるようです。

誰もが緑を楽しめる快適な環境を形成していく必要があります。

●半世紀で様相を変えたまちの景観

昭和50（1975）年の町制施行の時にはまだ残っていた農村地帯の景観は、土地改良や当時から進んでいた都市化により、その姿を変えてきました。

地目別面積割合の推移からは、田畑と宅地の割合が2000年代に逆転しているのが分かります。

近年も市街化により田畑は減少し、



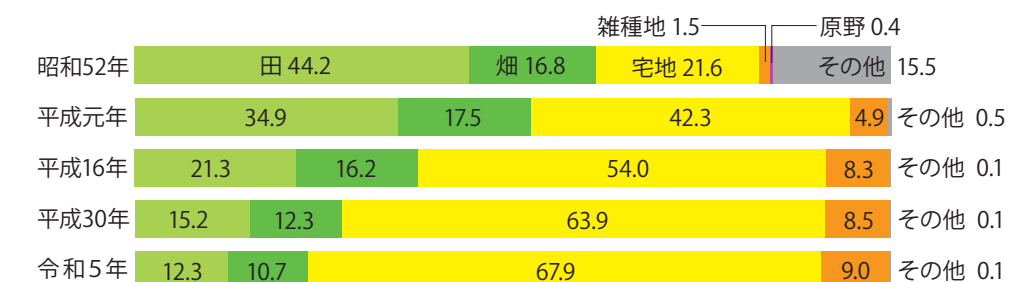
馬島から西を望む（昭和49年）



馬島から西を望む（令和6年）

宅地が増え、雑種地が微増しています。今後も引き続き、宅地の割合の増加が見込まれています。

図3-2 地目別面積割合の推移（単位：％）



（固定資産の価格等の概要調査より）

●砂子で進む防災公園の整備

令和9(2027)年の開園を目指して、町で最初となる都市公園の整備を砂子地区で進めています。

憩いの公園

町の公園緑地には、庄内川河川敷公園をはじめ、大治浄水場公園、長牧調整池公園などのほかに、21か所のちびっこ広場があります。

また、キャッチボールなどができる球技場が、西條壱町田と砂子中割、堀之内狐穴の3か所にあります。

そのほか、町営野球場や多目的スポーツ広場、砂子ゲートボール場などの運動公園が整備され、交流や健康づくりの場所として利用されています。

ここでは、緑と憩いの景観のいくつかを巡ってみましょう。

●四季の自然を楽しめる庄内川水辺の散策路と河川敷公園

庄内川水辺の散策路は、平成26(2014)年に完成した河川敷公園にあります。

この散策路は、名古屋市西区の庄内緑地公園に至る延長約6.7kmの歩行者



河川敷公園が完成

平時は緑地公園ですが、災害時には一時的な避難地として利用できます。安全で快適な公園づくり、「緑あるまちづくり」を象徴する施設です。

専用路で、ウォーキングやジョギングに最適です。

国土交通省の「かわまちづくり支援制度」のもとで、庄内川河川事務所が整備し、清須市が施設利用時の維持管理を行ってきました。

その後、庄内川沿岸の自治体の連携や交流を推進するために「清須・あま・大治かわまちづくり協議会」が設立され、水辺空間を生かした都市づくりが進められました。

平成26年6月の散策路の完成式には、Eボートでの川遊びやウォーキングなどが行われ、大治太鼓やご当地アイドル(海部地域盛り上げ隊)のステージもありました。

●ひと休みできるポケットパーク

ポケットパークとは、道路整備や交差点の改良によって生まれたスペースにベンチを置くなどしてつくられた、



ポケットパーク(砂子)

小さな公園のことです。

平成に入ってから町内にも徐々に増え、堀之内や砂子などに設置され、町民が一休みできる場所となっています。

●行き交う人の目を楽しませる花園

大治南小学校に近い三本木には噴水がある花園が設けられ、平成10年代半ばから同校の6年生の児童を中心に、植栽などが行われていました。

令和5(2023)年の春には、「美しく丁寧に」を合言葉に、サルビアやマリーゴールドを植え、とてもきれいな花壇になりました。



大治南小学校の児童による植栽風景

●コンビ遊具がある大治浄水場公園

大治浄水場公園は、浄水場の一部である配水池の地上部分にあり、昭和52(1977)年7月に開園しました。水と緑の大切さを町民にも広く理解し



いろいろな遊具が楽しめる大治浄水場公園

てもらいたいという思いが込められています。

サクラやツツジなどが植栽された園内には、コンビ遊具を中心に複数の遊具があり、和やかな公園となっています。

●長牧調整池公園

長牧調整池公園は、地下に貯留槽がある公園です。

地上には人工芝が敷かれ、子どもから大人まで楽しめる広場となっています。



広々とした長牧調整池公園

●萱津用水を通る「せせらぎ水路」

平成27(2015)年度から令和4(2022)年度にかけて、砂子と三本木を通る萱津用水にふたをして上に歩道を造り、散策路としました。

夏季には水路に水を流し、涼やかなせせらぎを楽しめるようになっています。



せせらぎ水路

第2節 発展する交通網

南北に走る名古屋環状2号線（名古屋第二環状自動車道（名二環）と国道302号）、東西に走る主要地方道名古屋津島線（バイパス）の開通は、新しい時代の幕開けの象徴ともいえるできごとでした。

計画当時は、地域の開発を支援する性格が強かったものの、農村地帯であった大治町と都市部の名古屋市との間で、渋滞の緩和や都心への車の乗り入れを防ぐ道路として、なくてはならないインフラといえます。この開通により、沿線の市町村は大きな変革期を



名古屋環状2号線（大治区間）

迎え、道路の整備とともに建物が多く建てられ、市街化が進み、人口も増えていきました。

図3-3 町内道路図



名古屋環状2号線（名二環、国道302号、伊勢湾岸自動車道）

表3-1 名二環の完成までの流れ

年	できごと
昭和33年	名古屋圏の渋滞緩和を目的に調査・検討。環状2号線の建設の提案
昭和43年	新都市計画法に基づき、自動車専用部と一般部が都市計画決定
昭和45年	名古屋高速道路も一体的に整備する都市計画が決定
昭和46年	事業化
昭和48年	着工
昭和57年	排ガスや騒音などへの対応が必要となり、往復4車線の自動車専用部などが決定

名古屋環状2号線は、名古屋市のほぼ外周を通り、大治町を含む6市1町1村を結んでいます。名二環、国道302号、伊勢湾岸自動車道からなる、延長66.2kmの環状道路です。

名二環は、高度経済成長期に計画が持ち上がり、50年以上にも及ぶ大事業となりました。

名古屋都市圏の環状道路として、都心の高速道路ネットワークの機能強化や物流の効率化などが期待されました。

名古屋都市圏にあたる大治町にとっても期待が大きく、徐々に完成していく風景を見ると、その期待も膨らんでいきました。

昭和63（1988）年に開通の記念行事が行われ、関係者や地域住民の多くが参加して祝いました。

町民からは、「名二環の完成により、風景がガラリと変わり、都市化も一気



開通前の名二環で、中学校の長距離走大会（昭和63年）



開通前の国道302号で「みんなでやろまい夏祭り」（平成3年）



国道302号西北部大治地区開通式（平成3年3月）

に進んで明るくなった」という人や「交通事故や治安の悪化が心配」と不安を口にする人もいました。

主要地方道名古屋津島線（バイパス）

名古屋津島線（県道 68 号）は、名古屋市中区を起点に大治町、あま市を経て津島市に至る、昭和 31（1956）年に計画された主要幹線道路です。

昭和 55（1980）年度からそのバイパス事業（4 車線、全長 8.81km、幅員 22 ～ 30m）に着手しました。

平成 7（1995）年に大治橋から国道 302 号までの大治工区の 4 車線 1.96km が供用開始されました。続いて、平成 24 年に国道 302 号から福田川、小切戸川の橋を含む県道須成七宝稲沢線ま

しかし、町にとっても名古屋市を中心とする日本の経済を牽引する中部圏に欠かせない道路となっています。

での暫定 2 車線 1.5km が供用開始されました。

これにより、周辺には店舗なども建ち、町の活性化につながりました。



名古屋津島線バイパス開通（平成 24 年 5 月）

まちの道路と橋梁

道路は宅地開発などにより、その距離と面積が増加していきます。

昭和 53（1978）年に、将来のまちづくりに必要な町道（都市計画道路）を決定しました。

表 3-2 道路の変化

年	道路延長	道路面積
昭和 60 年	約 130,450m	約 564,173㎡
令和 5 年	約 142,777m	約 715,830㎡

表 3-3 橋の変化

年	15m 未満	15m 以上	合計
昭和 51 年	36 橋	6 橋	42 橋
令和 6 年	56 橋	7 橋	63 橋

それに伴い、堀之内砂子線の一部を整備しています。

この道路は、南北に走り、名古屋津島線（バイパス）と接続します。すでに開通しているところでは、憩いのスペースを確保するなど、緑のある環境も造っています。

また、橋は、昭和 51 年と令和 6（2024）年を比べると、21 橋増えています。

これらにより、交通の利便性の向上につながっています。

●町と名古屋市を結ぶ大正橋

大正時代初期に、初めて庄内川に橋

が架けられました。

この大正橋は何度か架け替えられてきましたが、交通量の増加により、平成 5（1993）年に南側に新大正橋を新設しました。

翌年の大正橋撤去の際、橋脚に竹筋



新大正橋の渡り初めの車列（平成 5 年 3 月）



架け替えられる前の大正橋（平成 6 年）



大正橋の竹筋コンクリート

コンクリートが使われていることが判明しました。昭和 19（1944）年の架け替えの際は戦時中で物資が不足していたため、鉄筋ではなく、竹筋を利用していたのです。

その竹筋コンクリートの一部を、新大正橋の下に展示しています。

●佐屋路を支えた砂子橋

砂子橋は、江戸時代後期に初めて架けられました。当時は佐屋路の一部で、木造の橋でした。

その後、修繕を重ねましたが、老朽化により昭和 63 年に新しく架け替えました。

平成 19（2007）年には、歩行者の安全確保のために、歩車道を分離した橋になりました。



木造だった砂子橋（昭和 62 年）



架け替えられた砂子橋（平成 19 年）

●安全に配慮して新川歩道橋が開通

平成4年には、通学路の回り道を解消し、歩行者や自転車の安全を確保するための新川歩道橋が開通しました。記念の式典では、テープカットの後に、鎌須賀の三世代夫婦と子ども会による渡り初めが行われ、多くの人を訪れて開通を祝いました。



喜びに沸く、町民たち 新川歩道橋開通式（平成4年）

公共交通

町には鉄道がないため、公共交通は、名鉄バスと名古屋市営バスが町民の足となっています。

大正13（1924）年に、町内にバスの運行が始まりました。中央自動車商会在が運行した、尾頭橋－岩塚－砂子－秋竹－神守－津島に至る路線でした。

大正14（1925）年には、中村から大治街道（大治小学校北側）を通り、秋竹に至る経路が開通しました。

町内に名古屋市の浄水場が造られることが決まり、市バスの乗り入れが話し合われました。昭和21（1946）年3月に浄水場の半施設が完成したことを期に、本格的な乗り入れ運動が始ま



町内を走る名鉄バス（昭和61年）

りました。ところが、名鉄バスが先行して路線免許を受けていたため、市バスの乗り入れに反対しました。その後、昭和37（1962）年に名古屋市営バス

Column みんなで押した木炭車

バスは、昭和16（1941）年にガソリン不足により、代燃車として木炭車を使うようになりました。

西條在住の元バス運転手によると、木炭車は馬力がなく、上り坂に差し掛かると、歩くよりも遅いスピードまで

落ちたとのことでした。そうすると、乗客が降りてみんなで車両を押しました。この木炭車は、戦後もしばらく使用され、記録では昭和27（1952）年頃になくなったようです。

が開通し、町は多くのバス路線がある地域となりました。

しかし、マイカーの普及などにより、蟹江線は平成9（1997）年に、下萱津佐織線は平成13（2001）年に休止されました。

また、名古屋市の中心部へ出かける時には、名古屋市電を利用しました。市電は、大正2（1913）年に笹島から中村公園まで敷設され、昭和31年に稲葉地町まで延長されました。そのため、中村公園や稲葉地町の駅まで自転車や徒歩で行き、市電を利用することが多くなりました。

「名古屋まつりに飾られる花電車を稲葉地車庫まで見に行った」と懐かし

む人もいます。名古屋市営地下鉄は名古屋から藤が丘まで開通していました。その後、昭和44（1969）年に中村公園まで、昭和57（1982）年に高畑まで延長されました。市電は昭和47（1972）年に廃止されました。



稲葉地車庫（昭和47年）
（提供 津島軽便堂写真館）

表3-4 昭和57年当時のバス運行状況

会社名	路線名	運行経路	町内の停留所	1日運行回数（回）	1日平均乗車人員（人）
名古屋市交通局	栄大治西条線	栄～大治西条	5 （大正橋西、東条、大治役場前、西条、大治西条）	30	1,400
	中村公園大治西条線	中村公園～大治西条		85	
名古屋鉄道株式会社	津島線	名鉄バスセンター～津島	4 （大正橋西、東条、大治役場前、西条）	174	1,500
		名鉄バスセンター～新下田		18	
	蟹江線	名鉄バスセンター～尾張温泉東海センター		26	
	下萱津佐織線	名鉄バスセンター～津島		49	35
	奥田線	名鉄バスセンター～国府宮	1 （長牧）	2	1

「昭和 50（1975）年の大みそかから元旦に地下鉄の終夜運転が始まり、友達と熱田神宮に初詣に行った」「中村

公園は昔から、海部郡方面の交通基地です」との話もありました。

Column 開通が待ち遠しいリニア中央新幹線

最高時速 505km、名古屋 - 東京間を 40 分、大阪 - 東京間を 67 分で結ぶリニア中央新幹線が、近い将来に開業する予定です。

昭和 47 年に当時の国鉄が、リニアモーターカー（後の超電導リニア）の

開発に着手しました。それから 50 年以上の時間が経過して、ようやく現実のものとなります。

開通すれば、東京もより身近になり、通勤通学圏と考えられるようになるかもしれません。



開発中のリニア中央新幹線と計画路線図（提供 JR 東海）

第3節 豊かな生活環境をめざして

整備が進む下水道と排水機場・調整池

●着実に整備が進む公共下水道

古来、日本人は排泄物を田畑の肥料として活用していたこともあり、汚水という認識がありませんでした。

しかし、都市化が進むにつれ、汚水の考え方も変化し、各自治体で処理をすることになりました。

昭和 50 年代の汚水処理は、汲み取りと単独処理浄化槽によるものでした。

平成に入り、汚水処理は、合併処理浄化槽や下水道での処理を始めました。

下水道の整備によって、河川などの水質が向上し、町民の生活環境が改善されます。

下水道には、自治体が単独で運営するものと、複数の自治体で共に運営する流域下水道があります。

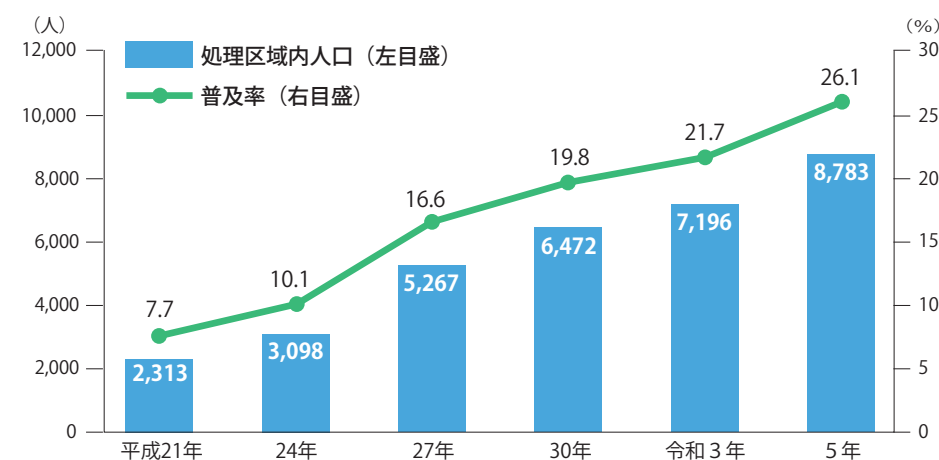
平成 14（2002）年に、県が主体となっ

て 1 市 8 町 3 村（津島市・佐屋町・立田村・八開村・佐織町（以上現愛西市）、弥富町・十四山村（以上現弥富市）、甚目寺町・美和町・七宝町（以上現あま市）、大治町、蟹江町）で行う日光川下流域下水道の計画を策定しました。これは、雨水と汚水を分けて処理する分流式の下水道です。

平成 15（2003）年に大治町は「日光川下流域関連大治町下水道事業計画」を策定しました。翌年から工事に入り、約 50 年間で市街化区域の 611ha を整備することを目標に進めています。

その後、着実に事業を進め、平成 22（2010）年 3 月末に一部の利用を開始し、令和 5（2023）年度末までに 120.77ha の整備を終えています。また、徐々に普及率も伸びています。

図 3-4 下水道普及率の推移（平成 21 年以降）



Column

マンホールふたのデザインとマンホールカード

下水道のマンホールのふたには、その地域の歴史や名勝などをデザインしたものがああります。

町のマンホールのふたには、日本初の眼科治療院である明眼院の仁王門と、特産品の赤シソをデザインしています。

いろいろな市町村のカードを集めてみてはいかがでしょうか？



よりよい環境をめざしたごみの処理

●ごみ処理の歩みとクリーンセンターの稼働

昭和 50（1975）年当時、ごみ処理の焼却施設は、津島市、蟹江町、弥富町、佐屋町、佐織町の 1 市 4 町で構成する一部事務組合が、「新処理場」の建設に向けて計画を進めていました。そのため、大治町もこの組合に参加しました。

組合は、昭和 51（1976）年に「津島市ほか 11 町村衛生組合」に名称を変え、昭和 58（1983）年に佐織町諸



八穂クリーンセンター

桑地内（現愛西市）に新処理工場（塩田センター）を完成させ、可燃ごみの焼却を始めました。

それまでは、町で発生する全てのごみを委託業者の最終処分場に搬入し、資源ごみなどは、町独自で中間処理業者を通じてリサイクル業者に搬入していました。

組合は、平成 12（2000）年に「海部津島環境事務組合」に名称を変えました。また、塩田センターが平成 14 年までしか使用ができないことから、新たに弥富町（現弥富市）に八穂クリーンセンターを建設し、平成 14 年に本格稼働しました。

その後、平成 18（2006）年には町村合併により、組合は「海部地区環境事務組合」に名称を変えました。

●高まる環境意識に向けて

町で出るごみの 90%は焼却ごみで、

そのうち約 50%を水分が占めています。そこで、水切りによるごみの減量など、家庭でできる工夫を呼びかけています。

昭和時代から平成にかけて、環境美化への関心が高まり、ごみ袋の仕様や排出の仕方などが革新的に変わってきました。また、空き缶回収機（くうかん鳥）の設置や、不法投棄パトロールが大々的に行われました。



平成 13 年頃まで使用した紙製のごみ袋



ポイ捨て防止に大活躍した、くうかん鳥

●資源物回収拠点「MOTTAINAI」などの活動

環境分野で初のノーベル平和賞を受賞したケニア人のワンガリ・マータイさんが、平成 16 年に来日した際に「もったいない」という日本語に感銘を受け、世界共通の言葉として広めることを提唱しました。

町では平成 18 年から環境かわら版「MOTTAINAI」を発行し、近隣 7 市町村と比較した 1 人当たりのごみ排出量ランキングなどを公表しています。

町のごみの排出量が海部管内の平均を上回っていたため、平成 19（2007）年から「^{おおはる}086 ごみ ダイエット作戦」と銘打ち、町民 1 人当たり 1 週間で 86g のごみの減量を呼びかけました。

そのために、お菓子の箱などの雑古紙を資源として回収を始めました。

この作戦が、平成 25（2013）年に「資源物回収拠点 MOTTAINAI」を設置するきっかけとなりました。きちんと分別すれば資源として再利用できるものを、回収しています。



「ごみ」から「資源」へ

第4節 安心安全なまちづくり

大きな災害

町の地理上の特徴として、次のことが挙げられます。大半が海拔ゼロメートル地帯である上に、過去に地下水を汲み上げて利用していたことから地盤の沈下が見られ、非常に低い土地です。

また、町の内外には多くの河川が流れています。

こうした地形により、水害が多く発生してきた歴史があり、対策が特に求められる地域です。

図 3-7 町内の河川図



昭和 51 年 9 月豪雨と突風

昭和 51（1976）年 9 月 8 日午後 9 時 30 分ごろ、中心気圧 910hPa の大型で非常に強い台風 17 号からの激しい雨が降るなか、町を突風が襲いました。突風は西條を南北に貫きました。その瞬間は、ひどい雷雨のなか、地震かと思うほどの大きな揺れが家を襲いました。割れた窓ガラスでけがをする人も多数いました。

また、大治幼稚園の駐車場の塀などが倒れ、民家の瓦が飛ぶなど多くの被



建設途中の大治西小学校

害が出ました。

主要地方道名古屋津島線（現町道）には、砕けた瓦や看板などが散乱し、



殿池神社の倒木（西條）

切れた電線が何本も垂れ下がるなどの、惨状が広がっていました。

突風が通り過ぎた後も、ゆっくりと台風が接近し、雨が降り続けました。屋根瓦が飛んだ家では、ひと晩中降り込む雨のために、室内が水浸しになり、眠れぬ夜を過ごしました。

夜が明けると、雨が降りしきるなか、屋根にシートをかぶせるなどの応急修理をする町民の姿も見られました。

9 日午後 7 時 50 分には、増え続ける流水量のため、佐織町（現愛西市）の目比川右岸の堤防が決壊しました。

雨は 7 日間降り続き、町では福田川の堤防が 300 m にわたって漏水し、40,000 袋の土のうで対応しました。

町の人口の約 3 分の 1 にあたる 5,088 人が被害に遭い、災害救助法が適用されました。

平成 3 年 9 月豪雨

平成 3（1991）年 9 月 19 日、台風 18 号の接近により、本州付近に停滞していた秋雨前線が活発化し、大雨となりました。

庄内川では、上流の名古屋市西区枇



深田地区の浸水（三本木）

県全体では住家が約 116,000 世帯、田畑が約 12,513ha、総額約 240 億円の被害が出ました。これは、昭和 34（1959）年の伊勢湾台風に次ぐ大きな災害でした。

また、岐阜県安八郡安八町で長良川の堤防 50 m が決壊し、特に被害が甚大であったため、「安八豪雨」と呼ばれています。

表 3-5 昭和 51 年 9 月豪雨・突風での被害数

住家被害		非住家被害	
全壊	1 戸	全壊	6 戸
半壊	196 戸	半壊	18 戸
一部破損	388 戸	農作物被害	
床上浸水	36 戸	田の冠水	260ha
床下浸水	773 戸	畑の冠水	75ha
重傷者	3 人	道路冠水	70 か所

表 3-6 平成 3 年 9 月豪雨での被害数

住家被害		道路被害	
床上浸水	1 戸	冠水	50 か所
床下浸水	116 戸	破損	1 か所

杷島で警戒水位を大幅に超え、危険性が高まりました。

新川は、砂子橋の橋脚が見えないほどまで水が迫り、上流からの漂流物が橋桁に絡まないように取り除く作業に追われました。



橋桁のすぐ下に迫る水（新川・砂子橋）

平成6年9月豪雨

平成6（1994）年9月17日、秋雨前線の活発化により、大雨となりました。

午後5時40分に大雨・洪水警報が発令され、午後11時ごろには福田川の水位が上昇し、越水の危険が出てきたため、土のうを準備しました。

表 3-7 平成6年9月豪雨での被害数

浸水被害地域		花常・馬島・三本木・砂子・鎌須賀・北間島・堀之内
住家被害	床上浸水	1戸
	床下浸水	113戸

翌18日午前1時ごろ、水位が低くなっていくことが確認されました。



増水の際に、砂子橋に設置した止水板（平成6年）

平成12年9月東海豪雨

平成12（2000）年9月に、後に「東海豪雨」と呼ばれる水害が発生しました。町に災害救助法が適用された大災害です。

9月11日、大型で非常に強い台風14号からの暖かく湿った気流により、秋雨前線の活動が活発になりました。

夕方には、集中豪雨により、庄内川や新川が増水しました。町内でも、円楽寺川や小切戸川、小糠田川が越水し、

町の大部分が冠水しました。

午後6時ごろに特に雨が強くなり、内水がさらに増えました。

午後7時30分に避難所を開設すると、水をかき分けながら、多くの町民が身を寄せました。

鎌須賀では新川の堤防から越水し、浸水被害が出ました。

雨がやむと、避難所に身を寄せていた町民は、徐々に、自宅に戻りました。

浸水した家では、水に浸かった家財道具の搬出や掃除に奮闘することになりました。

翌日も、場所によっては道路が冠水



膝まで水に浸かりながらの避難



新川決壊地点（名古屋市西区）

したままで、水没して動かなくなった車両が放置されるなど、通常の生活に戻るまでには長い時間がかかりました。

小中学校では、12日は臨時休校に、翌13日は給食なしで、弁当を持参しての登校としました。



9月12日の夜明け後の新川・砂子橋



平常時の新川・砂子橋

表 3-8 平成12年9月 東海豪雨の状況

日 時		内 容
11 日	午後5時15分	災害対策本部を設置
	午後5時29分	県西部に「大雨洪水警報」「雷、波浪注意報」を発表
	午後6時	七宝観測所で、1時間降雨量79.5mmを計測
	午後7時30分	避難所を開設
	午後7時40分	新川の師勝町久地野水位観測所（現北名古屋市）で、堤防が耐えられる最高水位の6.57mを超える出水
12 日	午後9時	庄内川の水が洗堰（名古屋市北区・西区）を超えて新川に越流
	午前2時	町内全域に避難勧告を発令。最大3,024人が避難
	午前3時30分ごろ	新川の左岸堤防（名古屋市西区）が100mにわたり決壊
16 日	午前4時30分ごろ	庄内川の枇杷島観測地点（現清須市西枇杷島町）で、過去最高水位の7.54mを超える9.36mの出水。後に、名古屋市中川区の一色大橋下流右岸で約200mにわたり越水
	午前7時	全ての町民が自宅へ戻り、避難所閉鎖

表 3-9 東海豪雨被害一覧

軽症者	1 人	冠 水	田	43ha
床上浸水	257 棟		畑	3ha
床下浸水	751 棟		道路	430 か所
最大避難者数	3,024 人	河川越水		3 か所



大治役場南交差点付近（馬島）

11 日夕方 7 時ごろから徐々に水位が上がり、畳を全部、机の上に上げた。（花常・60 代）

庄内川の堤防ぎりぎりまで増水して、手が洗えるかと思うほどだった。（八ツ屋・50 代）

新川の砂子橋の上を水が流れていた。堤防が切れる寸前だった。（砂子・40 代）

新川の水位がみるみる下がり、茶色く濁った水が流れてきた。今思えば、上流の堤防が決壊した後だと思う。（鎌須賀・50 代）

12 日の朝、出勤のため、地下鉄中村公園駅まで歩いて向かった。町内の道路は、深いところでは腰下まで水があった。泥水のため地面が見えず、側溝に落ちた人もいた。（西條・30 代）

家の前の道路から 3 日間、水が引かなかった。（花常・40 代）

床下のヘドロ除去、消毒の散布、外壁の水洗いなどに 10～15 日くらいかった。（馬島・50 代）

いつまでも道路がどろどろで、臭かった。1 週間ぐらい、臭いがした。（鎌須賀・40 代）



（年齢は当時のもの）

表 3-10 雨量（七宝観測所）

日にち	雨量
11 日	268mm
12 日	87mm
計	355mm

名古屋の 9 月の平均降水量は 231.6mm
（平成 3～令和 2 年 気象庁）

災害に強いまちづくりのために

土地の特徴や過去の災害を教訓に、町ではさまざまな災害対策をしてきました。そのうちのいくつかを紹介しましょう。

指定避難所を設置

水害や大規模災害などに備えて、指定避難所を設けています。

昭和 63（1988）年には、役場や公民館、町民体育館など 9 か所でした。その後、防災コミュニティセンターやスポーツセンターなども避難所に指定し、12 か所になりました。

一方、役場は災害対策本部としての機能を強化するために、避難所の指定を解除しました。

また、各避難所には非常食や毛布などのほか、熱中症対策の冷風機や感染症対策の衛生用品など、状況に応じた必要な物を備えています。

表 3-11 避難所の変遷

年	避難所	数
昭和 63 年	役場、公民館、町民体育館、小中学校（4 校）、西公民館、南保育園	9 か所
平成 12 年	役場、公民館、町民体育館、小中学校（4 校）、西公民館、南保育園、スポーツセンター、八ツ屋防災コミュニティセンター、砂子東部防災ふれあいセンター、総合福祉センター	13 か所
令和 6 年	公民館、小中学校（4 校）、多世代交流センター、南保育園、スポーツセンター、八ツ屋防災コミュニティセンター、砂子東部防災ふれあいセンター、西條防災コミュニティセンター、総合福祉センター	12 か所

防災訓練

毎年 8 月には、防災訓練を開催してきました。主会場では、災害対策本部を設置した大規模な訓練をし、そのほかの地区ではやや小規模な訓練を、同日に行います。小学校区を持ち回りで主会場としたため、どの地区の町民も、数年おきに大規模な訓練に参加できます。

火を用いての消火訓練や円楽寺川での舟艇操作、ヘリコプターによる救助物資の降下など、実践的な訓練を行いました。

毎年開催してきた総合防災訓練も、令和 2（2020）年と翌年は、新型コロナウイルス感染症のため、中止せざるを得ませんでした。

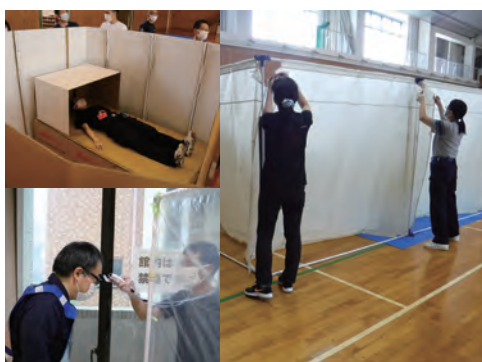
しかし、防災対策を絶えさせることはできません。そこで、町職員や防災の関係者で、新型コロナウイルス対策を踏まえた避難所運営の訓練をしました。それまでの受け入れ人数や必要な資



油に点火しての消火訓練（昭和53年）



はしご車で、ビルの上から避難（昭和53年）



安心できる避難所づくり（令和2年）



生き残りをかけて、行動！（令和5年ぼうさいマスター）

材などを全て見直し、安全に安心して避難できる、新しい体制を構築しました。

それを踏まえ、安全性とプライバシーの確保を両立させる居住スペースの確保や、大勢の避難者を体調に応じて適切に受け入れる方法など、新しい形での訓練を行いました。

令和4（2022）年には、町民参加型の防災訓練「ぼうさいマスター」を開始しました。

海部東部消防組合や自主防災組織などがブースを設け、災害時に役立つ知

識や技能を参加者に伝え、体験してもらいます。

過去の防災訓練は、災害の発生後に必要となる活動を主とした内容でした。

一方、ぼうさいマスターでは、非常用持ち出し袋の中身の確認やライフラインの復旧の方法など、災害への事前の備えや、自らができることを重視した内容としました。また、ゲームの要素を取り入れたため、子どもを含め多くの参加があり、自助の大切さの再認識と防災意識の向上につながりました。

防災行政無線の整備

従来から防災行政を重要な課題としていたことから、昭和50（1975）年に、防災行政無線局を開設しました。これにより、非常時に現場に出向いた職員が、役場の本部へ携帯用無線機で迅速に状況を伝えることができるようにな

りました。

平成元（1989）年4月には、町内各所に防災行政無線の屋外スピーカーを新設しました。これは、防災情報をいち早く町民に知らせることを目的としています。

表3-12 防災行政無線の取り組み

年 月	こと
昭和50年3月	防災行政無線局を開設。携帯用無線機を備える
平成元年4月	防災対策無線システムの運用開始。新設した同報系無線システムでは、平時はミュージックチャイムとお知らせの放送も行う
平成28年4月	無線システムをデジタル化。屋外スピーカーを増設
令和3年1月	ミュージックチャイムの鳴動なしに、動作確認ができるように変更



防災無線室（左）と携帯型無線機（中央）（平成元年）、西條の屋外スピーカー（右）（令和7年）

災害時の協定・協力事業所

大規模災害の時には、さまざまな分野で、救助や復旧活動が必要となります。町でも、指定避難所をはじめとする公共施設に、さまざまな物資を備蓄しています。

しかし、災害が長期にわたる場合に、十分な物資を限られたスペースに備え

ることは、難しいことです。

そこで、自治体や企業、団体などと、災害時における協定を結んでいます。被災時にはそれぞれの得意な分野での人員や物資の提供を受けることができるようになりました。

被災地への職員派遣

近年は、全国各地で甚大な自然災害が多発しています。被災者のケアや復興への業務も多様化しており、それらに対応しつつも迅速な復興が求められています。

被災した自治体では、十分な対応が難しく、ほかの自治体に応援を依頼する事例も増えています。

平成 16（2004）年の新潟県中越地震に、町では七宝町や美和町（現あま市）と共に、ボランティアとして職員を派遣しました。

町の備蓄品などの救援物資を運び、6 日間にわたり現地でテントや車中泊をしながら、住宅の片づけなどに携わりました。また、被災者との対話を通



甚大な被害を目の当たりに（左：東日本大震災（平成 23 年）、右：能登半島地震（令和 6 年））

表 3-13 被災地への職員派遣

年	災害名	派遣先自治体
平成 16 年	新潟県中越地震	新潟県小千谷市
平成 23 年	東日本大震災	宮城県仙台市ほか
平成 28 年	熊本地震	熊本県御船町
平成 30 年	西日本豪雨	広島県東広島市 岡山県倉敷市真備町
令和 元年	台風 19 号	栃木県栃木市
令和 6 年	能登半島地震	石川県志賀町

じて、大地震の現状を理解することができました。

平成 23（2011）年の東日本大震災以降は、被災地からの要請を受け、職員を派遣してきました。活動中は、被災者に寄り添うことを第一としながらも、自治体の対応を学び、現地でしか得られない貴重な経験や知識を、町の災害対策に生かしています。



海部東部消防組合

人口の増加と都市化により、消防力の強化が必要となり、七宝町・美和町・甚目寺町（以上現あま市）と共に、海

部東部消防組合を設立しました。

消防組合では、消防や救急活動だけでなく、町民の防火意識を高めるた



力を合わせて防火綱引大会（平成 2 年）



ちびっこ消防広場で大人気の力士たち（平成 8 年）

表 3-14 海部東部消防組合の主な流れ

年	できごと
昭和 46 年	海部東部消防組合を設立 消防本部を甚目寺町に設置
昭和 47 年	消防本部を七宝町遠島に移転
昭和 63 年	北分署を甚目寺町新居屋に新設
平成 10 年	南分署を大治町三本木に新設

めの活動もしてきました。

その一つが、昭和 62（1987）年から始まった防火綱引大会です。4 町の在住や在勤者のチームで、一般の部と

火災件数と無火災記録

昭和 50 年以降の町での火災は、多い年は 20 件を超える年もありましたが、徐々に少なくなってきています。また、大きく見ると、横ばいから減り



交通の要所に建てられた南分署（平成 10 年）



静岡県熱海市の土砂災害での救助活動（令和 3 年）

小学生の部の男女別で競います。平成元年の大会では、子ども会や職場の仲間など、40 チームが熱戦を繰り広げました。

また、自主防災団体が行う防災訓練への協力や小学生の施設見学など、町民にとって、身近な存在となっています。

阪神淡路大震災や東日本大震災、能登半島地震などの被災地で人命救助活動に携わるなど、いざという時に頼りになる存在です。

つつあるといえます。

大字別では、長期間、火災ゼロを継続したとして、中島、花常、馬島、東條、北間島が無火災表彰を受けました。

表 3-15 年間火災件数

年	件数
昭和 50 年	23
昭和 60 年	20
平成 7 年	12
平成 17 年	15
平成 27 年	6
令和 5 年	6

特に馬島では、平成 19（2007）年 1 月から令和 3（2021）年 12 月までの期間、15 年間の無火災記録を樹立しました。昭和 46（1971）年の海部東部消防組合の設立以来の、長期間にわたる無火災記録となりました。

海部地区水防事務組合

海部地区水防事務組合は、昭和 48（1973）年に、海部地域の 13 市町村（津島市、佐織町・佐屋町・立田村・八開村（以上、現愛西市）、弥富町・十四山村（以上、現弥富市）、七宝町・美和町・甚目寺町（以上、現あま市）、蟹江町、大治町、飛島村）で設立しました。

1・2 級河川と海岸の水防への事務

砂子防災公園

令和 9（2027）年に開園を目指して整備をしている砂子防災公園は、町で初の都市公園でもあります。

平常時は、子どもたちが遊べる緑豊かな公園です。また、災害時には、一時的な避難地として、約 1,800 人の避難者の受け入れを予定しています。

表 3-16 大字別の無火災記録表彰

大字	期間
5 年間無火災記録	
中島	昭和 59 年 1 月～昭和 63 年 12 月
北間島	平成 7 年 1 月～平成 11 年 12 月
東條	平成 11 年 1 月～平成 15 年 12 月
花常	平成 31 年 1 月～令和 5 年 12 月
10 年間無火災記録	
中島	平成 26 年 1 月～令和 5 年 12 月
15 年間無火災記録	
馬島	平成 19 年 1 月～令和 3 年 12 月

（中島、花常、馬島は、令和 7 年 3 月まで無火災記録継続中）

大字ごとの努力が実を結び、町全体に防火のまちづくりが広がっています。

を目的とした組合です。管内のほぼ全域が海面より低い特性から、倉庫や舟艇など、水防のための資機材の整備や訓練を合同で行っています。

町内には、西條、八ツ屋、三本木に水防倉庫があり、庄内川や新川などの防護に備えています。

また、海部地方総合防災訓練を組合が主催して、毎年行っています。



砂子防災公園のプラン図

球技ができる広いグラウンドや遊具のある広場、小高い丘に芝生広場などがあり、各所に日陰にもなる樹木を植えて、自然を感じることができます。

子どもから高齢者までが、日常的に

南海トラフ地震

南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘にかけてのプレートのひずみによる地震で、約 100 ～ 150 年ごとに発生しています。

令和元（2019）年 5 月に、「南海トラフ地震臨時情報」の運用が開始されました。

令和 6（2024）年 8 月 8 日午後 4 時 42 分に日向灘を震源とするマグニチュード 7.1、最大震度 6 弱の地震が発生しました。それを受けて、午後 7 時 15 分、「巨大地震注意」の情報が発表されました。

大地震が発生する確率が高くなったことを受け、備蓄品の確認など、注意深く生活する日々が続きました。

地域と自らを守る、自主的な活動

災害への備えは、行政だけでは十分ではありません。大規模な災害が発生したその時に、一人一人がどう動き、

親しむことのできる憩いの場所であり、いざという時の避難地であることから生まれる安心感も、大きなメリットの一つといえます。

1 週間後の 8 月 15 日午後 5 時、日向灘での地震が減少したことなどから、この注意情報は解除となりました。

町でも期間中は情報収集に努め、事業を慎重に進めてきました。

今後も、予告なく発生する災害に、より一層の備えが必要です。

表 3-17 南海トラフ地震 大治町の最大被害予測

最大震度		6 強	
建物 全壊	揺 れ	900 棟	計 1,400 棟
	液状化	200 棟	
	火 災	300 棟	
死 者 数		50 人	
避難者数		約 5,700 人	

『平成 23 年度～25 年度愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査報告書』より

近くの人とどう助け合うかが、大切になってきます。

消防団

大治町消防団は、明治 32（1899）年に「消防組」ができたのが始まりです。

昭和 14（1939）年に「警防団」に、昭和 22（1947）年に「消防団」となりました。



威風堂々と防火パレード（平成3年）

本部のもとに7つの分団があり、令和7年3月時点で201人の団員が活動しています。

また、消防団は水防団も兼ねています。

令和5（2023）年の海部地方総合防災訓練は、木曽三川連合総合水防演習と合同で行われました。大雨による内水の氾濫を想定し、改良積み土のう工や舟艇訓練を行い、水防技術の向上に努めました。

女性消防クラブ

女性消防クラブは、「婦人消防クラブ」として、昭和59（1984）年11月に結成されました。「家庭から火を出さない」を合言葉に、活動をしてきました。

年末親子夜回りや親子防火フェスティバルでの防火カルタ、人形劇の上演など、子どもを対象に楽しく知識を得られる活動を積極的に取り入れました。

昭和63年には、横浜で行われた第4回全国婦人消防操法大会に、愛知県代表として出場しました。

表 3-18 消防団年間活動内容

月	内 容
1 月	出初式
4 月	基礎教育訓練
5 月	幹部団員教養
6 月	海部地方総合防災訓練
9 月	海部東部消防連合演習
11 月	防火パレード
12 月	年末火災警戒活動

実際に東海豪雨では、増水し続ける河川の水位や堤防の見回り、土のう積みや避難者の誘導など、被害を最小限に抑えるための大きな力となりました。

火災時は、消火活動はもちろん、交通誘導や鎮火した後の警備などを行います。

また、平常時には、町民への防火指導や行事への参加など、地域防災のリーダーとしてさまざまな活動に従事しています。

この大会は、可搬ポンプから目標物に向けて、正確に早く放水する、消火の技術を競うものです。

普段の活動とは異なり、体力作りや



訓練の成果を発揮

重いホースの取り扱いなど、一からの訓練となりました。

半年にわたって厳しい訓練をし、大会に臨みましたが、入賞には一步及びませんでした。

しかし、普段の活動から一步踏み込み、「消火」に発展させるとともに、

自主防災組織

自主防災組織は、地域住民が協力して「自分たちのまちは自分たちで守る」ことを目的に、活動をしています。

大規模災害が発生した直後は、消防や警察などの公的機関の救援が不足するため、自主防災組織が大きな力を発揮します。

町が主催する防災訓練や活動に積極的に携わるほかに、それぞれの組織で、地域の特性に合わせた活動をしています。

独自で防災訓練やイベントを開催したり、勉強会や施設見学などを行ったりと、地域には欠かせない存在です。

また、町の9つの自主防災組織で、「自主防災団体連絡会」をつくっています。この連絡会で意見交換や交流をしながら、それぞれの組織の活性化につなげています。

団結力の向上につなげることができました。

令和元年には、名称を「女性消防クラブ」と改め、活動も時代のニーズに合わせて変更しつつ、家庭での防火対策に寄与しています。

表 3-19 自主防災組織一覧

団体名	設立
明治町自主防災（防犯）会	平成14年6月
柳原《助け合い隊》	平成17年6月
深田自主防災会	平成26年2月
南屋敷自主防災会	平成26年7月
第三東部地区自主防犯防災会 （第三東部この町みんなで守り隊）	平成26年8月
花常地区自主防災会	平成27年4月
馬島地区自主防災会	令和4年8月
北間島自主防災会	令和5年4月
砂子東部自主防災会	令和6年5月



自主防災団体連絡会での勉強会

犯罪・交通安全対策として

昭和50年以降、社会の発展とともに、犯罪も増加してきました。

昭和50年は窃盗や強盗が多く、令

和になると、車上狙いや自動車盗、自転車盗などが、わずかながらも増加しています。

近年では、SNSを使った犯罪や電話によりお金をだまし取る特殊詐欺といわれる犯罪が増加しています。
そこで、自主防犯団体が設立され、

地域ぐるみで防犯活動の輪も広がっています。
行政や地域住民と共に、安心して安全なまちづくりを目指しています。

自主防犯団体

自らの町を安全で住みよい町にしたいという活動が、盛んに行われています。どの団体も、防犯活動を大げさなものと思えず、身近な場所で「見守る目」を増やすことを主な活動としています。
主に町内のパトロールやのぼり旗の設置など、啓発活動をしています。こういった日ごろの活動により、町民同士のつながりが増え、安心して出歩くことができるまちづくりに結びついています。



安心できるまちを目指して！（令和 5 年年末防犯出発式）

表 3-20 自主防犯団体一覧

団体名	設立	活動内容
白ゆり会	平成 17 年 4 月	見回り、青パト
柳原町内会助け合い隊	平成 17 年 6 月	見回り
大治町年輪ボランティアの会（ONB の会）	平成 17 年 7 月	登下校時の見守り、付き添い
屋形の絆	平成 18 年 1 月	見回り
島井青壮年会	平成 23 年 3 月	登下校時の見守り
明治町自主防災（防犯）会	平成 23 年 5 月	見回り、啓発
長牧明楽会	平成 24 年 7 月	見回り
第三東部地区自主防犯防災会（第三東部この町みんなで守り隊）	平成 26 年 8 月	見回り、のぼり旗掲出
花常地区自主防災会	平成 27 年 4 月	見回り、のぼり旗掲出、防災
深田防犯クラブ	平成 28 年 10 月	見回り、のぼり旗掲出、チラシ配布、防犯啓発
西之切自主防犯クラブ	令和 3 年 11 月	見回り、のぼり旗掲出
大治ランパト隊	令和 4 年 10 月	見回り

地域防犯の要 大治交番

津島警察署管内の 18 か所に交番があり、その一つに大治交番があります。交番は、地域の防犯や交通安全の要として必要不可欠です。

以前は、大治派出所として、大治役場南交差点の東側にあり、夜間の帰宅時などにも安心感を与える存在でした。

平成 6 年に、全国で「派出所」からより親しみやすい「交番」に名称が変わったことにより、「大治交番」とな



大治交番（左・平成元年、右・平成 28 年）

りました。
平成 28（2016）年 4 月には、建物の老朽化が進んだため、役場の西隣に新築移転しました。

交通安全

昭和 52（1977）年 8 月 4 日から昭和 55（1980）年 9 月までの間、交通事故死ゼロが続きました。3 年間余り、1,125 日間という長期間にわたる記録です。

その後、東名阪自動車道や国道 302 号などの開通により、道路が整備され、便利になった反面、交通事故の危険性が高まることとなりました。

また、町内に鉄道の駅が存在しないこともあり、自家用車を利用する町民が多くなってきました。

そこで、町では交通安全への意識の

向上と交通事故の防止につながる取り組みをしてきました。

その一つとして、交通安全フェス



交通安全フェスティバル（平成 3 年）

ティバルを開催していました。

平成3年には、ぬいぐるみによる交通安全の寸劇や交通安全クイズ、白バイ隊によるオートバイトライアルなどを通じて、啓発をしました。

また、注意看板の設置や道路のカラー塗装など、事故防止のための施策も行っています。

さまざまな取り組みが実を結び、平成5（1993）年7月から5年間、交通死亡事故ゼロを達成し、総務庁（現総務省）から交通対策本部長表彰を受けました。この表彰は、愛知県では富山村（現豊根村富山地区）に次いで、2番目の受賞でした。

交通安全を見守る団体

津島交通安全協会大治支部は、有志によるボランティア活動です。

毎月、10日・20日・30日の交通事故死ゼロの日に、交通量の多い交差点に立ち、通学中の児童生徒や町民の安全を見守っています。

また、シートベルトやチャイルドシートの着用を呼びかける「シートベルト・チャイルドシート関所」も行っています。

女性運転者友の会は、交通安全の意識向上を目指す女性の会です。

保育園や幼稚園で紙芝居の読み聞かせや、町民から募集した標語をつけた手作りのキーホルダーを配布しています。

それぞれの団体の活動を通じて、事故のないまちづくりを目指しています。

表 3-21 交通安全団体

団体名	設立
交通安全協会津島支部大治分会（現津島交通安全協会大治支部）	昭和 35 年
大治町交通安全推進協議会	昭和 42 年
女性運転者友の会	平成 7 年



交通事故死ゼロに向け、シートベルト関所（平成 20 年）



幼稚園での紙芝居（令和 5 年）